



「新型コロナウイルス」の急速な感染拡大により、これまでに経験したことのない、3月のほとんどを臨時休校した形で、本年度の修了式を迎えることになりました。4月を迎えるにあたり、どのような形で新年度を開始できるのか不安ではありますが、国が示す対策方針や、それを受けた各自治体の対応策に従って、準備を進めていきたいと思えます。

保護者のみなさんには、臨時休校に伴う様々な対応にご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。明日から「春休み」となりますが、日常の学校教育活動が再開できるまで、引き続きお子さんの健康管理と学習や生活の支援に努めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

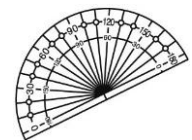


巣立ちのとき（卒業式）

19日（木）に、令和元年度の卒業証書授与式を行いました。3月5日から臨時休校となって以来、2週間ぶりに子どもたちの声が学校に戻ってきました。新型コロナウイルス感染予防のため、卒業生とその保護者、教職員、来賓代表（2名）だけが参加するという、例年とは異なる縮小化された形での卒業式でしたが、6年生児童26名が、それぞれの小学校生活の思い出を胸に、学び舎から巣立っていきました。式辞の中で、私から卒業生に贈った話の概要をここに紹介します。

ノートに長さが10cmの直線を横に引き、底辺の片方の角度が1度の直角三角形を描くことをイメージしてみてください。その時の垂直な辺の高さは、どれくらいになると思いますか。正解は1.7mmです。次に、底辺の長さを1m、10m、100mと延ばしていくと、高さはそれぞれ1.7cm、17cm、1.7mとなります。そして、底辺を1kmまで延ばすと、高さは17mになります。これを坂道に置き換えて考えてみると、傾きが1度では、ほとんどまっすぐな道にしか見えません。しかし、その道を1km歩いて行った先では、出発した場所よりも17m高い位置に立っていることとなります。ビルの高さにすると、5階か6階の高さになります。

中国の思想書である「老子」に由来する言葉に、「千里の道も一歩から」という諺があります。千里は約4,000kmで、日本列島の北海道から沖縄までよりも長い距離です。そんな長い道のりも、足元の一歩から始まります。この諺の意味は、「どんなことでも、始めの一歩無くしては達成できないものであり、少しずつでも着実に努力を続けていくことで、成功につながる」ということです。



分度器の話のように、たった1度の小さなものであっても、その努力を続けていくことにより、必ずその先で大きな結果が現れてきます。どうか、これからも小さな努力を続けることを忘れずに、新しいことに挑戦し、勇気をもって始めの一歩を踏み出して行ってください。

ありがとうございました

この「学校だより」を通じて、学校行事や普段の子どもたちの様子、その時々話題などをお伝えしてきました。「平成」から「令和」へと元号が替わり、熱中症対策や新型コロナウイルス対応等、子どもたちの健康・安全にかかる出来事が続くなど、話題の多い1年でしたが、無事に年度末を迎えることができたのも、保護者や地域のみなさんをはじめとする、多くの方々のご理解とご協力・ご支援があったことと、深く感謝しております。どうもありがとうございました。



※ 本日の修了式の後、3月末をもって退職及び転出する職員の離任式を行いました。該当する職員の名前を児童に口頭で伝えました。転出先の所属等は、4月から着任する職員紹介と合わせて、新年度の「学校だより」でお伝えします。